

10月15日
有事に備えて
こども園で防災教室を実施



先生たちの消火活動を応援する園児たち

認定こども園ましゅう（高野龍彦園長）が10月15日、同園敷地内で防災教室を行いました。この日は園児約80人が参加。弟子屈消防署（池田保士署長）職員2人の協力のもと、園内厨房からの出火を想定した避難訓練を実施しました。緊張感ある訓練に、思わず泣き出してしまう園児の姿もちらほら。その後は、消火訓練見学や消防車試乗体験を行い、防災について教えてくれた消防職員に園児たちは元気よくお礼の挨拶をし、今回の防災教室を終えました。

カメラスケッチ
広報マンが行く!!

このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかけつけます。お気軽にご連絡ください。

まちづくり政策課政策調整係 ☎482-2913（直通）

10月22日
自分たちで育てた野菜を食す
川湯保育園で待ちに待った収穫祭を実施



美味しいご飯を食べてニッコリ

川湯保育園（小林史和園長）が10月22日、園児たちが育てた野菜の収穫祭を行いました。この日は、自分たちで大切に育てたじゃがいもやにんじんの野菜をふんだんに使ったシチューを調理。収穫祭には、畑を貸してくれた川湯小学校の山館校長を招き、みんなで美味しい昼食をいただきました。管理栄養士たちから食育について学ぶ時間もあり、食べ物に感謝しながら笑顔いっぱい食べる園児たちの姿が見られました。

10月18日
川湯温泉の秋のイベント
「川湯マルシェ」を開催



会場には地元の出店が立ち並び、各店特色を活かした自慢のフードや雑貨などを販売。川湯ばやしの太鼓披露も行われ、温泉街は多くの来場客で賑わいを見せていました。

（一社）摩周湖観光協会（渡辺隆幸会長）主催の川湯マルシェが10月18日、川湯温泉街で開催されました。

また、夜には同協会による「温泉川ナイトウォークツアー」も併せて行われ、参加者はガイドの解説を聞きながら、昼間とは一味違った温泉川の風景を楽しみました。

10月28日
体操のお兄さんといっしょ！
スローエアロビク教室を開催



音楽に合わせて体も脳も活性化

町主催のスローエアロビク教室が10月28日、町公民館で行われました。

スローエアロビクとは、心肺機能の向上や姿勢改善、転倒予防、脳の活性化が期待される有酸素運動のことで、今回はNHK教育番組「おかあさんといっしょ！」第9代体操のお兄さんの天野勝弘さんが講師を務めました。教室には22人が参加し、天野さんと一緒にスローエアロビクや筋トレ、ダンスなどで体を動かし、「人生100年時代」を豊かに生きるための健康づくりを学びました。

10月25日
屈斜路湖の生きものについて学ぶ
自然ふれあい行事講演会を開催



吉川名誉教授による講演会の様子

10月25日、川湯ビジターセンター（安藤心センター長）で自然ふれあい行事の一環として、玉川大学農学部吉川朋子名誉教授による屈斜路湖の生きものに関する講演会が行われました。

講演では、屈斜路湖に生息しているアマモやサクラマスなどの魚類を中心に、湖で得られた知見の報告がありました。吉川名誉教授は、屈斜路湖は水深が比較的浅く、豊富な湧水が魚類の産卵環境を支えているとし、「自然環境は常に変化しているため興味・関心を持ち続けることが大切」だと話しました。



共進会の様子

日本一のホルスタインを目指して
第16回全日本
ホルスタイン共進会



入賞を果たした吉田さん

10月25日、26日の2日間、安平町にて第16回全日本ホルスタイン共進会が開催されました。乳牛の健康な体型の改良度合いを比較展示するため、全国のホルスタイン種を一堂に集めて行っている本大会は、5年に一度開催されていますが、前回大会がコロナウイルス感染症の影響で中止となったため、今回は平成27年以来10年ぶりの開催となりました。

本町からは坪井泰憲さん、吉田雄貴さん、坪井秀明さん、坪井新奈さん、(株)メド一ブリッジホルスタインズ（高橋和憲代表取締役）の5人6頭が出場。皆さんは、牛の姿勢や歩様、体のバランスを最も美しく見せるよう会場内で牛を引き歩く「リードマン」としても本大会に出場し、自慢の牛とともに観客を魅了しました。

中でも吉田さんは「ホルスタイン未經産14か月以上16か月未満の部」において優秀賞第6席（全国6位）入賞を果たし、優秀な成績を収めました。

町の話

CloseUp Topics

町の和牛改良に感謝
「かねはる」の軌跡をたどる



日置市から視察に訪れた久保さん



審査会の様子

11月4日から7日の日程で、姉妹都市日置市から3人の視察団が来町しました。今回の視察は、平成25年に日置市から導入した黒毛和牛「かねはる」の子孫がどのように改良されているのかを、当時の飼養者でもあった久保勝弘さんに見定めたいいただき、今後の改良につなげたいというものです。

「かねはる」は平成24年の鹿児島県畜産共進会においてグランドチャンピオンに輝き、姉妹都市交流の一環で翌年の平成25年に繁殖用雌牛として町に贈られた黒毛和牛で、その後町内に多くの子孫を残し、町の繁殖牛の基盤を作りました。「かねはる」の血統を継承する牛の中には「摩周和牛」としてブランド牛となっている個体もいます。昨年11月、繁殖牛としての役目を終えた「かねはる」は、町内小中学校、高校の給食に使用され、多くの子どもたちに提供されました。

5日には町内の「かねはる」の子孫を集めた審査会を開催し、子孫の改良について意見交換を行いました。本事業を主催した摩周和牛改良組合長の吉田一徳さんは、「かねはる」から生まれた「つながり」をこれからも大切にしたい。」と話していました。